

- 案件 令和3年吹田市の自殺の状況の報告とコロナ禍における各室課の取組について意見交換。

地域保健課

自殺対策として、自殺未遂者支援事業等の個別支援や地域ネットワークの強化、啓発、人材育成等の取組を実施。R3年度から若年層への対策強化として、市内大学、公立高校との連絡会を実施。R4.9月からホームページ上で「こころの体温計」の運用開始。

母子保健課

産後ケアの対象を拡充し、利用者増加。核家族で実家に支援が得られない等不安あり。産後うつ傾向の高い人が増えている。

教育センター

小中学校の教員向けに毎年ゲートキーパー研修実施。コロナ禍で相談件数は不変だが、希死念慮の相談もみられるようになった。

青少年室

相談件数増加し、内容も複雑化している。保健所と連携し、大学や高校のゲートキーパー研修に同行して啓発実施。

男女共同参画センター

女性の相談増加傾向。R3.7月より夜間や土曜の電話相談を拡充。男性電話相談はまだ件数少なく周知必要。

人権政策室

人権啓発事業はオンラインを活用して実施。

子育て給付課

ひとり親家庭の支援。コロナ禍で離婚増、無職で育児する母増加。

生活福祉室

コロナ禍で家賃を払えない人の家賃補助や就労支援も実施。ホームレスや不登校児の支援も実施。生保を勧めても本人が拒否し、追い詰められてしまうケースある。

高齢福祉室

心身の健康問題や介護問題から起こり得る自殺を防ぐため、体操教室やフレイル予防等実施。孤立を防ぐため、地域包括が中心となって民生委員と連携している。

障がい福祉室

自殺企図によって身体の障がいが残ったり、希死念慮によって入退院を繰り返すケースがあり、訪問看護等と連携しながら支援している。R4からこころのサポーターモデル事業開始。

総務予防室(消防本部)

自損行為にともなう搬送はR3年142件、R4年141件。月別では5月、曜日では水曜日が多い傾向。

市民総務室

多重債務相談実施。成人年齢引き下げでの契約トラブルや投資詐欺による借金相談あり。高齢者向けの特殊詐欺増加。

社会福祉協議会

コロナ禍の貸付約3,000件。1月から償還開始だが、生活再建できなかった人へ支援必要。大学生への食料支援も実施。

※地域経済振興室、家庭児童相談室は欠席。

主な意見・発言内容

今後

令和5年度は「吹田市自殺対策計画」の改訂年度(5年に1回)のため、市民の意識調査や作業部会を実施予定。自殺に至る理由は複合的であるため、各室課が互いの取組を知り、庁内外の連携を含めたネットワークの強化が必要。